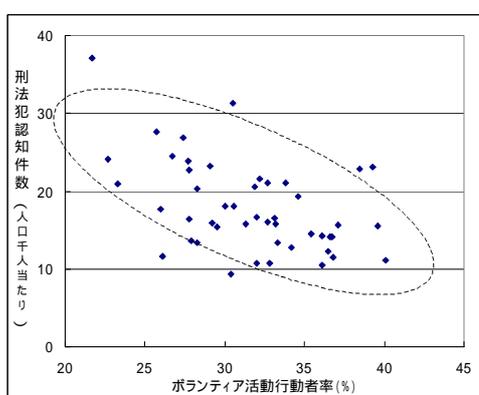


調査結果の概要

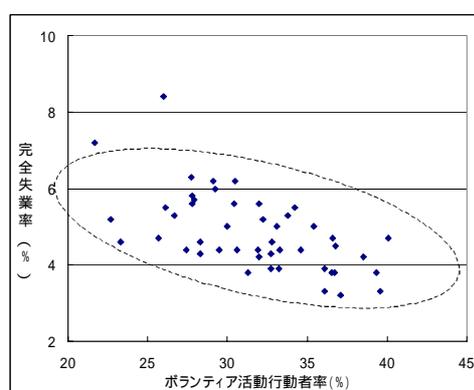
I はじめに

問題意識

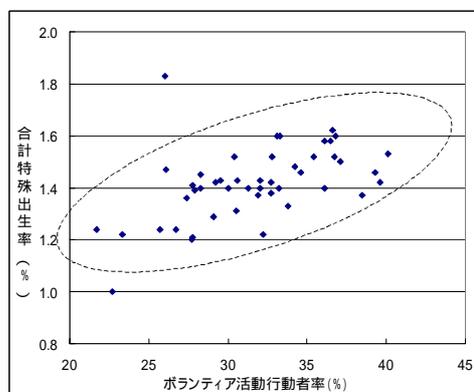
- ・「ソーシャル・キャピタル (Social Capital)」とは、「ネットワーク (社会的な繋がり)」「規範」「信頼」といった社会組織の特徴で、共通の目的に向かって協調行動を導くものとされる。この新しい概念が、物的資本 (Physical Capital) や人的資本 (Human Capital) などと並ぶ概念として、近年、世界的に注目を集めつつある。こうした中で、ボランティア活動を始めとする市民活動の社会的意義についても、ソーシャル・キャピタルの培養という側面の重要性に目が向けられ始めてきた。
- ・日本の都道府県についてみると、下図のようにボランティア活動の活発な地域は、他の地域と比べて、例えば、犯罪発生率や失業率が概して低い、出生率は高いといった傾向がみられる。



ボランティア活動行動者率と犯罪発生率



ボランティア活動行動者率と失業率

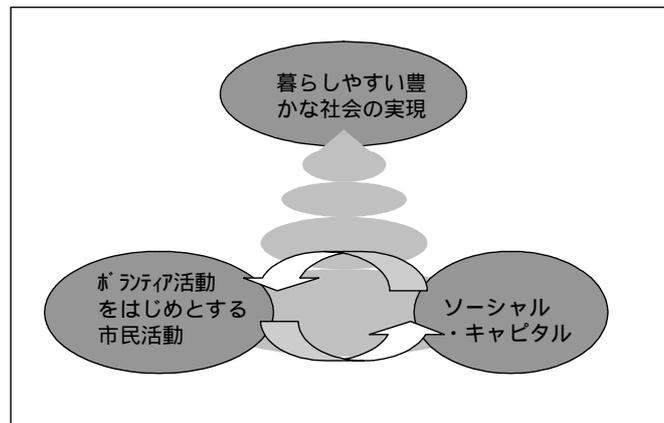


ボランティア活動行動者率と出生率

- ・これらの関係については、ソーシャル・キャピタルという概念に着目すれば、ボランティア活動の活発化は、地域社会における人的ネットワークとその社会的な連携力を豊かなものにする効果をもち、すなわちソーシャル・キャピタルの蓄積に寄与し、それが地域社会の安心・安全・安定などの各面に好ましい成果をもたらしているという見方も可能となってくるのではないだろうか。
- ・一方、ソーシャル・キャピタルの豊かな地域では、ボランティア活動が盛んになるという関係もあろう。ソーシャル・キャピタルと市民活動との間に相互作用が存在するならば、その好循環を引き出すことが、暮らしやすい豊かな社会の実現にとって望ましいこととなる。

目的・ねらい

- ・とりわけ我が国では、ソーシャル・キャピタルに関する調査研究は、まだ緒についたばかりの段階である。また、ボランティア活動をはじめとする市民活動とソーシャル・キャピタルとの関係についても、必ずしも十分な議論が尽くされていない。
- ・そこで、本調査は、ソーシャル・キャピタルの考え方や論点を整理するとともに、市民活動との関係の検証や定量的な動向把握の試みなどを行い、ソーシャル・キャピタルの培養という観点から我が国における市民活動の今後の展望と課題を探ろうとしたものである。



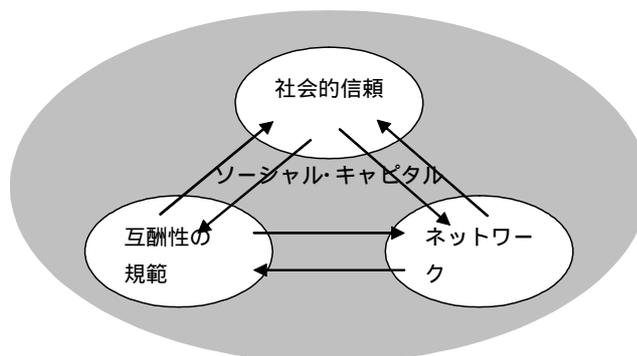
市民活動とソーシャル・キャピタル

II ソーシャル・キャピタルという新しい概念

ソーシャル・キャピタルとは

- ・ソーシャル・キャピタルの明確な定義について一般的な合意が存在しているわけではないが、議論に大きな影響を与えているアメリカの政治学者、ロバート・パットナムは、次のように明記している。

人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴



ソーシャル・キャピタルの概念イメージ

結合型と橋渡し型といったいくつかのタイプ

- ・ソーシャル・キャピタルには、その性格、特質からいくつかのタイプがあり、最も基本的な分類として、結合型(bonding)と橋渡し型(bridging)というものがある。

結合型ソーシャル・キャピタル：組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼・協力・結束を生むもの。例えば、家族内や民族グループ内のメンバー間の関係。

橋渡し型ソーシャル・キャピタル：異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワーク。例えば、民族グループを超えた間の関係とか、知人、友人の友人などとのつながり。その繋がりはより弱く、より薄い、より横断的であり、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとみられている。

ソーシャル・キャピタルの意義・効果

- ・ソーシャル・キャピタルは、健康の増進、教育成果の向上、近隣の治安の向上、経済発展など有益な成果をもたらす、社会や個人の繁栄にとってその蓄積が重要であると指摘されている。
- ・その一方で、ソーシャル・キャピタルは負の側面（ダークサイド）を有する可能性もあるとされ、強力な結合型ソーシャル・キャピタルに内在する排他性の危険性があり、また社会の中での偏在の可能性なども指摘されている。

III 市民活動とソーシャル・キャピタルの定量的把握

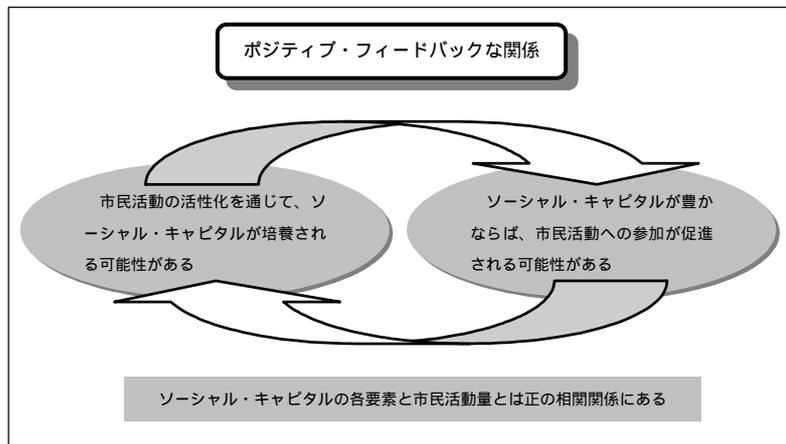
ソーシャル・キャピタルと市民活動との関係

- ・「ネットワーク」「信頼」「規範」の3つを切り口に、ソーシャル・キャピタルの構成要素について個人の意識と行動を把握したアンケート調査（下表）から、これらの構成要素とボランティア活動を始めとする市民活動との間には、相互に関係があることが窺われた。

ソーシャル・キャピタルの測定指標

構成要素	本調査アンケートでの調査項目
つきあい・交流 (ネットワーク)	【近隣でのつきあい】 ・隣近所とのつきあいの程度 ・隣近所とつきあっている人の数 【社会的な交流】 ・友人・知人とのつきあい頻度 ・親戚とのつきあい頻度 ・スポーツ・趣味等活動への参加 ・職場の同僚とのつきあい頻度
信 頼 (社会的信頼)	【一般的な信頼】 ・一般的な人への信頼 ・見知らぬ土地での人への信頼 【相互信頼・相互扶助】 ・近所の人々への期待・信頼 ・友人・知人への期待・信頼 ・職場の同僚への期待・信頼 ・親戚への期待・信頼
社会参加 (互酬性の規範)	・地縁的活動への参加 ・ボランティア・NPO・市民活動への参加

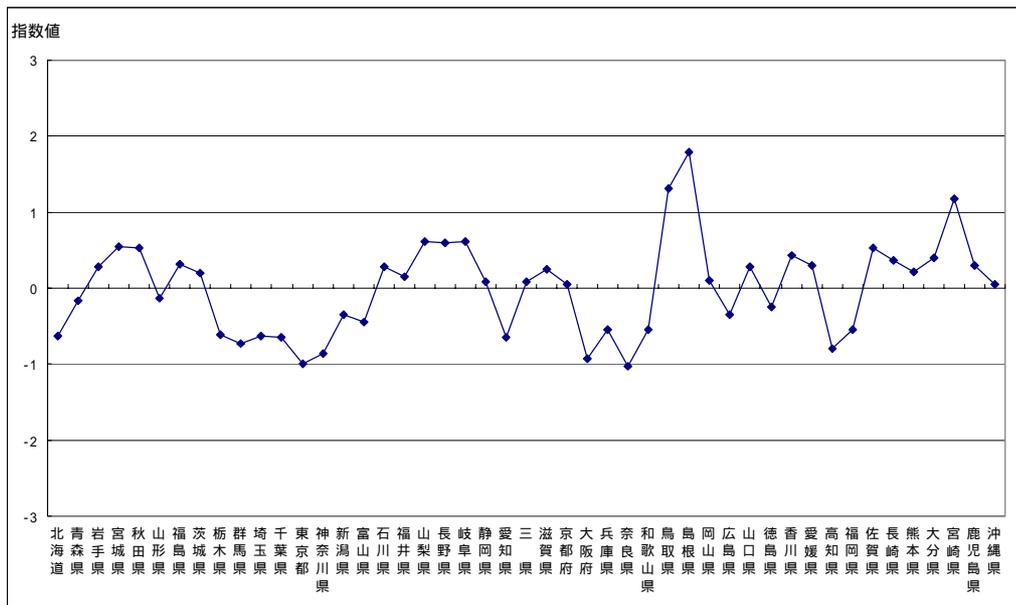
- ・例えば、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人達は、地域活動に参加していない人と比べて、人を信頼できると思う人が相対的に多く、近隣でのつきあいや社会的な交流も活発な傾向にある。実際、ボランティア・NPO・市民活動への参加者は、他の地域活動にも積極的であり、また居住地域を越え、多様な人達との交流が広がっている様子が窺える。他方、人を信頼できている人達、近隣でのつきあいや社会的な交流の活発な人達は、そうでない人と比べて、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人が相対的に多く、今後新たに参加したいとの意向を持っている人も多い傾向にある。
- ・こうしたことから、ソーシャル・キャピタルの培養と市民活動の活性化には、互いに他を高めていくような関係、すなわち、「ポジティブ・フィードバック」の関係の可能性があると考えられる。



ソーシャル・キャピタルと市民活動の関係

我が国のソーシャル・キャピタルの地域別状況（試算）

- ・わが国のソーシャル・キャピタルの地域別状況について試算したところ、下図のとおり、概ね東京や大阪等の大都市部において値が相対的に低く、地方部の値が相対的に高い傾向にある。



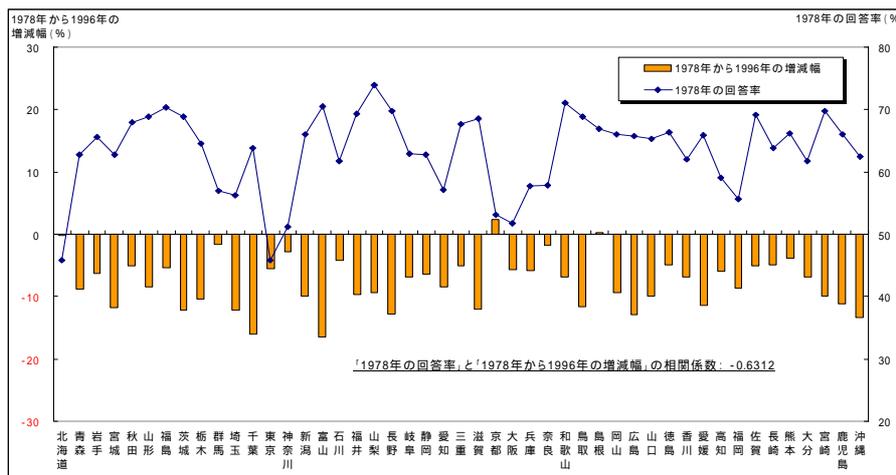
ソーシャル・キャピタルの効果分析

- ・上記試算値を用い、いくつかの国民生活関連指標との関係を分析したところ、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、失業率が低く、出生率が高いなどの関係が認められた。さらに検討を深めていく必要があるが、ソーシャル・キャピタルが我が国の国民生活分野等で社会での問題解決能力の向上等を通じて有益な成果をもたらす可能性が示唆される。

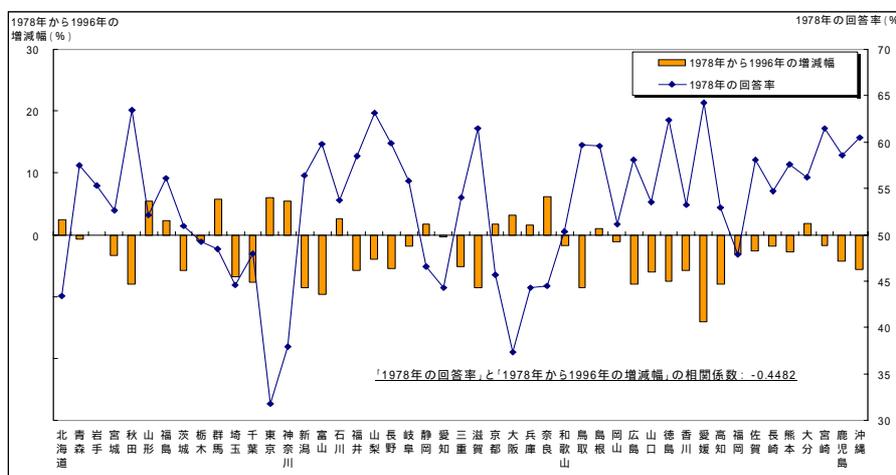
我が国のソーシャル・キャピタルのこれまでの動向

- ・これまでの変化について関連する指標の動きから推察すると、全国レベルでこの四半世紀近くの期間において総体としてのソーシャル・キャピタルが減少したかどうかは定かでないが、「つきあい・交流」の面では近隣つきあいを中心に減少している可能性が窺える。地域別にみると、ソーシャル・キャピタルが相対的に豊かな地方部で減退している可能性があり、東京・大阪等の大都市部では横ばいないし回復の兆しといった可能性も窺える。

「お宅では、隣近所の人とのつきあいは多いですか」



「あなたは地元の行事や祭りには積極的に参加したいと思いますか」



1978年の都道府県別の指標値（回答率）と1978年から1996年の増減幅との関係（NHK全国県民意識調査）

IV 市民活動事例からみたソーシャル・キャピタル培養の可能性

新しいソーシャル・キャピタルを醸成する市民活動

- ・ NPO やボランティア団体の活動事例調査から、市民活動が新たに生まれることにより、新しい信頼関係に基づく人間関係が形成され、この結果、地縁組織等が形成してきた既存のソーシャル・キャピタルとは異なる、新しいソーシャル・キャピタルが誕生している状況がみられた。
- ・ 市民活動が地縁組織等との協力・連携などの関係づくりが行われる場合もあり、この過程を通じて既存のソーシャル・キャピタルも影響を受け、活性化していくということもある。
- ・ また、新しく誕生したソーシャル・キャピタルは、その後新しい市民活動を生む母体となり、より多くの人々の間に新しい信頼関係が形成され、水平的でオープンなネットワークが拡大されていっている。

地域社会のソーシャル・キャピタル変容の条件

- ・ 上記のように、NPO やボランティア団体が人間関係の求心力（人と人が結びつきかけ、理由）となり、さらに新しく構築された人間関係の間に信頼を醸成し強化していく場となっていくために重要な市民活動の要素として、以下の3点が指摘できる。

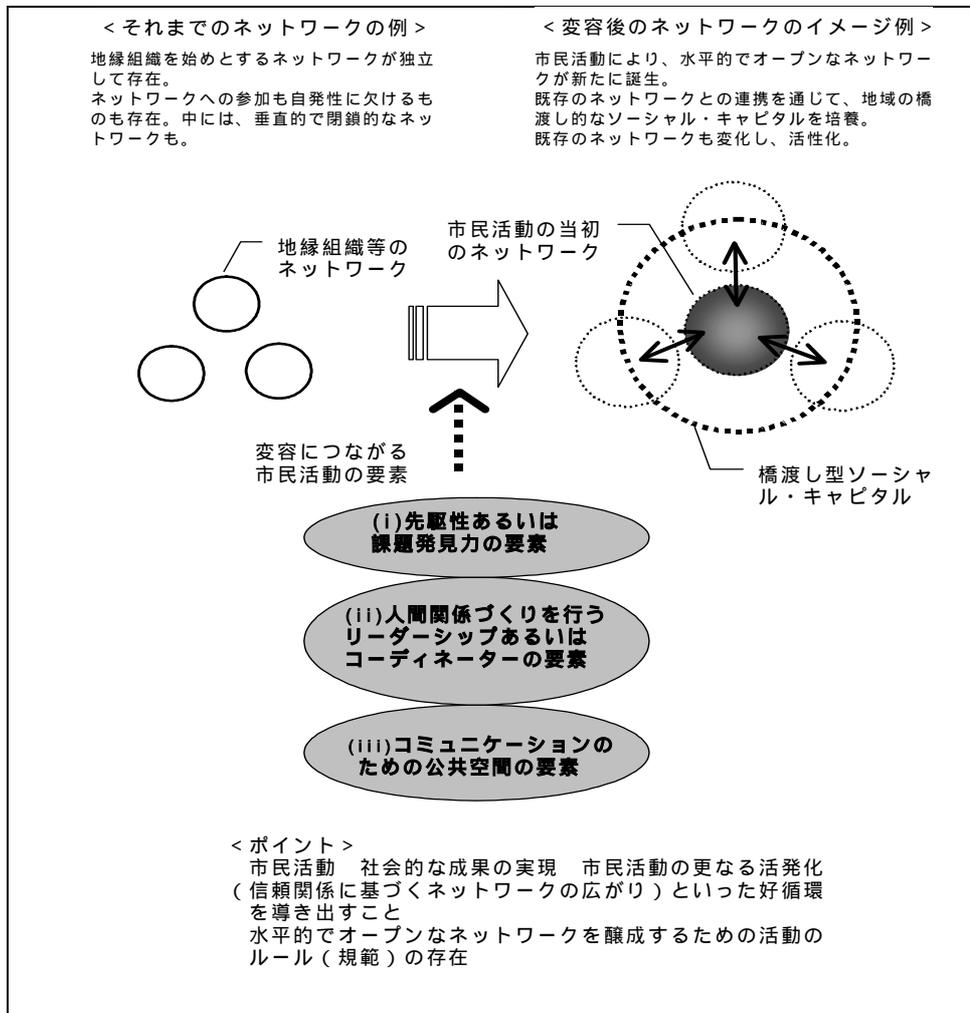
(i) 先駆性あるいは課題発見力の要素

(ii)人間関係づくりを行うリーダーシップあるいはコーディネーターの要素

(iii)コミュニケーションのための公共空間の要素

- ・また、水平的でオープンなネットワークを醸成するための活動のルール（規範）の存在や、市民活動 社会的な成果の実現 市民活動の更なる活発化（信頼関係に基づくネットワークの広がり）といった好循環を導き出すことなどもポイントとなっている。

市民活動によるソーシャル・キャピタル変容の可能性（一つのイメージ）



V ソーシャル・キャピタルの培養に向けた市民活動の今後の展望と課題

ソーシャル・キャピタル培養の基本方向

- ・ソーシャル・キャピタルが相対的に豊かでない大都市部での回復の兆しの動きをより活性化するとともに、減少の可能性のある地方部でその動きを食い止めていくという視点も重要となるが、その際、信頼に基づいた社会的なつながり、ネットワークの充実を図るといった量的な側面とともに、ソーシャル・キャピタルのマイナス面（ダークサイド）への気配り、橋渡し型ソーシャル・キャピタルの構築といった質的な側面に留意していくことも重要である。

市民活動への期待と課題

- ・ソーシャル・キャピタルは、その地域における歴史や文化面での長年の蓄積が反映されるところが大きいとするならば、現状を変化させることは簡単ではないかもしれない。しかし、本調

査を通じてボランティア活動を始めとする市民活動とソーシャル・キャピタルは互いに高めあうような関係にあるとみられ、市民活動の活発な動きによって、今後のわが国のソーシャル・キャピタルが質量の両面でより豊かなものとなっていくことが期待される。

- ・市民活動の今後の展開において、ソーシャル・キャピタルの培養という観点からは、以下のよう
な点が重要であろう。

(i)市民活動の取組み

- ・水平的でオープンな活動運営の推進
- ・橋渡し型ソーシャル・キャピタル培養基としての積極的な活動展開
- ・外部の人・組織との相互信頼形成の促進

(ii)地縁組織の活性化

(iii)地縁組織とその他の市民活動との交流の促進

(iv)ITネットワークの活用

- ・先進諸国間で政府の取組みや関心度合いに差があるが、ソーシャル・キャピタルが社会や個人
の繁栄にとって重要な関係を有するとの認識から政策的な含意についての議論も行われつつ
ある。今後政策的論議を深めていくためにも、以下の点にまず取り組むことが重要であろう。

(i)ソーシャル・キャピタルの理解への取組み（パブリック・アクセプタンス）

(ii)ソーシャル・キャピタルの定量把握とそのためデータの整備への取組み

(iii)ソーシャル・キャピタルの成果に関する研究の深化

VI むすび：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

- ・ソーシャル・キャピタルと市民活動との間のポジティブ・フィードバックの関係を有効に機能
させていくためには、市民活動自体が水平的でオープンなネットワークを形成していくことと
あわせて、活動に対する社会的な評価、信頼を得ていくことが重要であろう。それが、市民活
動への理解者、支援者等を増やして、信頼に基づいたネットワーク（ソーシャル・キャピタル）
を拡大する原動力となり、更なる自発的な市民活動の発展に結びつくという好循環をもたらす
と考えられる。
- ・コミュニティの崩壊と再生は、大都市部だけの問題ではなく、地方部においてより深刻な
問題となりつつあるのかもしれない。豊かな人間関係と市民活動の好循環、すなわち「信
頼やネットワークの再生産」を促進するソーシャル・キャピタルの培養を図っていくこと
が求められているのではないか。